

2012年 → 2013年

中学体育実技 ルール改正一覧

改正点・旧ルール	新ルール
<p>陸上競技 ★短距離走のスタート (p.80)</p> <p>②次の場合は不正スタート（フライング）となる。国際陸上競技連盟のルールでは、不正スタートをした競技者は1回目から全て失格となる。中学生の大会では、1回目のスタートでの不正スタートは警告を受け、2回目以降のスタートで不正スタートをした競技者は全て失格となる。混成競技では2回の不正スタートをした競技者が失格。 (以下省略)</p>	<p>②次の場合は不正スタート（フライング）となる。 (中略)</p> <p>※国際大会と日本陸上競技連盟が主催共催する大会（全日本中学校選手権など）…以下のAが適用される（混成競技はB）。その他の中学生の大会…Bが適用される（混成競技はC）。</p> <p>A. 不正スタートをした競技者は1回目から全て失格。 B. 1回目のスタートでの不正スタートは警告、2回目以降のスタートで不正スタートをした競技者は全て失格。 C. 2回の不正スタートをした競技者が失格。</p> <p>※中学生の大会は、日本陸上競技連盟が主催する大会では国際ルールが適用され、その他の大会では従来通りのルールで行われることになった。 2013年4月1日より適用</p>

バスケットボール

★コート (p.104 ~ 125)

※2013年度版より、バスケットボールのコートを含むイラストを、全て新コートに変更した。新コートの図は2011年度版より掲載済み。

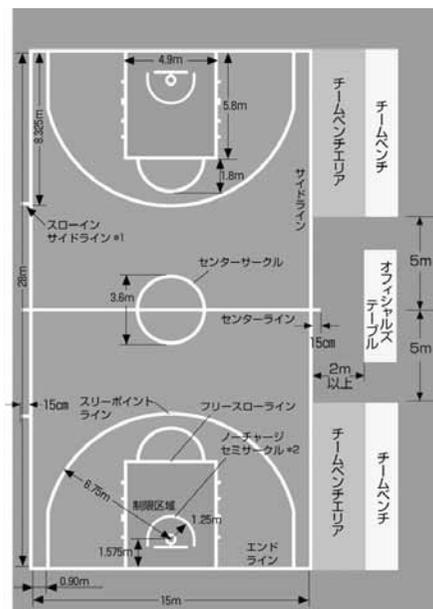
- ・制限区域が長方形になった
- ・スリーポイントラインがゴールから約50cm遠くなった
- ・スローインサイドライン*1、ノーチャージセミサークル*2が設けられた

*1 スローインサイドライン…第4ピリオドまたは延長時限の最後の2分間にタイムアウトを認められたチームがスローインでゲームを再開する位置（フロントコート側から）。

*2 ノーチャージセミサークル…攻撃側がボールを保持して防御側の胴体に突き当たっても、その防御者がこのサークル内にいたときは攻撃側にチャージングが宣せられない。

★ボール (p.105)

中学生男子は7号サイズのボールを使用する。女子は従来通り6号サイズのボールを使用する。



2012年全国中学校体育大会の後の大会より適用

改正点・旧ルール	新ルール
<p>ハンドボール ★チーム (p.126) 1チームのプレイヤーは 14 人。</p> <p>★競技時間 (中学生) (p.126) ハーフタイム 10分</p> <p>★グリーンカード (チームタイムアウト請求カード) (p.127) 各チームは、前半・後半に各 1 回ずつ、1 分間のチームタイムアウトをとることができる。(以下省略)</p>	<p>1チームは 16 人のプレイヤーで構成される。 ※公式試合の登録プレイヤーの人数が変更になった。</p> <p>ハーフタイム 10分 (原則) ※大会によって異なるため、「原則」と付記した。</p> <p>各チームは 1 分間のチームタイムアウトをとることができる。回数は 3 回までで、かつ、前半・後半それぞれで最高 2 回までである。(以下省略) ※1 試合のチームタイムアウトの回数ととり方が変更になった。</p> <p style="text-align: right;">2012 年 4 月 1 日より適用</p>

バレーボールに関する重要なお知らせ

2012 年 9 月の国際バレーボール連盟の総会で、「サービスレシーブでは、オーバーハンドの動作でダブルコンタクトやキャッチをした場合、反則となる」というルールが承認され、国内でも 2013 年からの適用が決定しました。しかし、2013 年 4 月 22 日に国際バレーボール連盟から、上記ルールの適用延期が発表され、国内でも適用を延期することになりました。

『中学体育実技 2013 年度版』では、2012 年 9 月の最初の決定を受けて B (右下) のように訂正しました。2013 年度版供給後に適用が延期となったため、適用が決定するまでは、A (左下) の内容でご指導いただきますよう、ご配慮をお願いいたします。

A (2011 年度版, 2012 年度版)

★パスに関する反則 ●ダブルコンタクト (p.187)
 両手のそろっていないオーバーハンドパス (第 1 回目の打球では反則とならない)。

1 人のプレイヤーが明らかに連続して 2 回ボールに触れたとき、ダブルコンタクトの反則。ただし、チームの第 1 回目の打球 (サービスレシーブなど) や、ブロックの後の打球では、1 つの動作であれば、ボールが体の異なる部分に次々に触れても反則ではない。

B (2013 年度版)

★パスに関する反則 ●ダブルコンタクト (p.187)
 両手のそろっていないオーバーハンドパス (サービスレシーブを除く第 1 回目の打球では反則とならない)。

1 人のプレイヤーが明らかに連続して 2 回ボールに触れたとき、ダブルコンタクトの反則。ただし、チームの第 1 回目の打球 (オーバーハンドのサービスレシーブを除く) や、ブロックの後の打球では、1 つの動作であれば、ボールが体の異なる部分に次々に触れても反則ではない。